

美術科学習指導案

日時 平成21年 9月18日(金) 5校時

13:10-13:45

場所 中野区立第二中学校 美術室

学級 第1学年B組 教諭 猪口 正和

コメント [T1]: 間違いでしょう。

35分しかない。

本年度、移行期間ということで新しい学習指導要領を根拠に考える。

1、 題材名「グラデーションの平面構成」A表現 (ア)

後の記述を見ると「美の秩序」が重要な意味をもつように思う。題材名は『美の秩序を・・・』であって、グラデーションはそのための方策に思えるが、いかがか？

コメント [T2]: 多分 A表現(2)とA表現(3)ーアと言うことではないか？

2、 題材の目標

- ① 形や色彩の組み合わせの面白さ、色彩の変化の美しさなどを感じる。
- ② 用具の特性を理解し、制作の順序などを考えながら、見通しをもって表現する。

①に関して、感じることでどのような情操の育成を目指すのか。「感じる」先を考えること

コメント [T3]: これは目標としてよいが、A表現(3)ーアには該当しない。A表現(1)ーアに示された内容を見ること。

3、 題材設定の理由

1学年の間はなるべく色彩と接する題材を多く扱おうと考えている。

これまで、ドリップングやマーブリング、コラーージュなどのモダンテクニックを中心に制作してきた。小学校からの流れもあってかそれらの作品は時に大胆で勢いのある表情を見せ、様々な技法を通じて色彩と接することによる、創ることへの前向きな姿勢を感じさせた。

今回は偶発的なパワーやある種の瞬発力を必要とする前回から少しベクトルを変えて、色彩を意図的に用いるグラデーションの平面構成に取り組む。数ある平面構成の中でも、グラデーションは仕上がったときの美しさを実感しやすいと考えるからだ。自分が美しいと感じる色の組み合わせは何か、それを生かす形はどういったものか、美しく変化させるためにはどのように混色したらよいか、試行錯誤させ、色彩の魅力を感じさせたい。

また、例えば空や海の青さを美しいと感じるその背景には、色調がだんだん明るくなったり、深くなっていったりする＝グラデーションというある秩序があることに気付かせ、身の回りの自然にある美を発見する契機にしたい。

これまでの指導経験のなかで「途中まではうまくできるのだけど、色を塗ると失敗する…」という声をよく耳にした。完成の達成感・成就感をより深く味合わせたいと思うので、1学年の段階で絵の具の美しい使い方をも身につけ、用具を表現に応じて意図的に

コメント [T4]: 学習指導要領は1学年と2,3学年という構成である。となると年間指導計画に表現(1)、(2)、(3)、鑑賞をバランスよく盛り込む必要がある。本題材のグラデーションは(1)か(2)なのか目的をはっきりさせること。その技術指導として(3)アにかかわること。学習指導要領都年間指導計画における位置づけを意識すること
継続的に題材を指導することは評価するが、モダンテクニック等一部の技法に片寄ることはよくない。

用いることができる下地を作りたいという思いもある。

4、生徒観（生徒の実態）

美術への関心・意欲・態度 もの作ることにに対して前向きな生徒が多い。
 その反面、深める直前で終わりにしてしまう場面もある。
 構想・発想の能力 「こうしたい」という欲求がきちんとあり、形にしていくことを厭わない。
 創造的な技能 偶発的な面白さを生み出すことも多いが、意図と目的を持って表現できる生徒はまだ少ない。
 鑑賞の能力 他者の作品の良さや意図を感じる力を持っている。

コメント [T5]: 評価の4観点から生徒を見ることはよい工夫と思うが、これはあくまで評価の観点であり、これに縛られてはいけない。

コメント [T6]: 公的な文書では、持つ(漢字)…手に持つ等具体的な場合。

持つ(仮名)…意欲をもつ等抽象的な思考等の場合。使い分けること

コメント [T7]:

コメント [T8]: 美の秩序とはどういうことか、授業者の論を述べ、実際にどう指導しようとするのかこの『指導観』できちんと説明する必要がある

コメント [T9]: 本題材の評価規準としては内容が大きすぎる。もっと本題材の具体性が欲しい。

コメント [T10]: これは本時の評価規準と考えること。その内容になっているか、確認することさらに『～具体的な評価規準』を根拠に「規準(B)を達成できない生徒への支援」一出来なければC、A評価を設定すること。BとAの違い。Bは授業者の指示の範囲で規準を達成できた。Aは授業者の指示をふまえ独自の発想を盛り込みさらに上のレベルを目指す。

5、指導観

- ・ 長短双方あるが、滲みにくく、乾くと耐水性になるアクリル絵の具を使うことにより、制作の進行をスムーズにする。失敗しても修正がたやすい。
- ・ 混色の過程を通して、混ぜる色の比率、塗る面に対して使用する絵の具の分量など、絵の具の扱いを体得させていく。
- ・ ものの美しさや良さの根底にある「美の秩序」を、実際の制作を通して感じさせる。

6、評価規準

評価の観点	ア 美術への関心・意欲・態度	イ 構想・発想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
題材の評価規準	<u>主体的に美術の活動に取り組み、美術を愛好する心情を深める。</u>	<u>豊かに発想し、構想する能力を伸ばす。</u>	<u>用具を、表現意図をふまえて、美しく正しく用いる。</u>	<u>作品の良さや美しさ、価値を感じる。</u>
学習における具体的な評価規準	最後まで丁寧に美しく仕上げる。	形や色彩の配色を工夫し、美しく構成する。 グラデーションが美しい変化をみせるように、色彩の変化を感じる	アクリル絵の具や面相筆の特性を理解し、美しく着彩する。 グラデーションが美しい変化をみせるように、混色する。	色彩や形、色調の変化等から根拠をもって、自分や級友の作品の良さや美しさ、価値を感じる。

7、材料・用具

授業者：平面構成シート、参考作品、アクリル絵の具セット、ペーパーパレット
 水バケツ、新聞紙、ワークシート、定規、台紙、両面テープ
生徒：筆記用具、色鉛筆、アクリル絵の具セット、ペーパーパレット

コメント [T11]: この中で、生徒ここに配布する材料、用具と共用と分けて表示すること

8、学習指導計画（全12回）本時はこの中のどこか、『8、学習指導計画』で示すべき

		学習活動	学習内容	評価
発 想 ・ 構 想	第1時	<ul style="list-style-type: none"> ・「美の秩序」について説明を聞く。 ・上級生の参考作品を観る。 ・アイデアスケッチ 	<ul style="list-style-type: none"> ・「美」には規則や法則があることを知る。 ・課題を身近に感じ、モチベーションを高める。 ・形と色彩を組み立てる。 	関 発
	第2時	<ul style="list-style-type: none"> ・アイデアスケッチ（続き） 	<ul style="list-style-type: none"> ・形と色彩を組み立てる。 	
	第3時	<ul style="list-style-type: none"> ・平面構成シートに枠線を引く ・枠線内にデザインを写す 	<ul style="list-style-type: none"> ・定規を正確に美しく用いる。 	
	第4時	<ul style="list-style-type: none"> ・枠線内にデザインを写す 	<ul style="list-style-type: none"> ・定規を正確に美しく用いる。 	
展 開	第5時 ー 第10時	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の実演を観る ・道具の配置 ・絵の具の混ぜ方 ・筆の使い方 ・水分の調整 ・デザインを着彩する 	<ul style="list-style-type: none"> ・用具の扱い方を視覚的に理解する。これ板書とかワークシートが必要だよ ・アクリル絵の具の美しい使い方を身につける。付ける 	関 創 発
	仕 上 げ	第11時	<ul style="list-style-type: none"> ・作品を台紙に貼る。 	
鑑 賞	第12時	<ul style="list-style-type: none"> ・自分、級友の作品を鑑賞する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・色彩や形、色調の変化等から根拠をもって、自分や級友の作品の良さや美しさ、価値を感じる。 	関 鑑

コメント [T12]: 評価に付いては第2案の時にコメントを入れる。

コメント [T13]: このことはこの後の作品の重要な方針となるように思う。美の規則、法則は今回の目標であり、評価標準の観点にもっと盛り込まれるべきと思う。

コメント [T14]: 教師とは一般的に先生を指す。学習指導案では『授業者』にする。

9、本時 本時の部分の評価規準が『学習における具体的な評価規準』である。

(1) 本時のねらい 見直すこと

- ・グラデーションが美しい変化をみせるように、明度の変化を感じながら混色する。
- ・水分量に気を配りながら、適切な濃度で着彩する。

(2) 本時の展開

もっともっと授業者のくふう、配慮、生徒の反応の予測等を細かく書くこと

時間	学習活動	学習内容	評価の観点
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標を把握する。 ・着彩についての授業者の実演を見る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・①道具の配置、②ペーパーパレットの使い方、③白を混ぜるコツ、④筆の使い方、⑤水分の調整の仕方、⑥色を塗る順番、⑦修正の仕方を視覚を通して理解する。 	
展開 30分	<ul style="list-style-type: none"> ・グラデーションになるように着彩する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・色の明るさの変化を感じながら、白の量を調整する。 ・ムラなく塗れるように、水分量を調整する。 	創造的な技能
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・片付ける。 		

コメント [T15]: 学習指導要領は公的な文書である。文言の使い方は統一すること
例えば、ねらいと目標、言葉が違えば違う意味が含まれることを意味する。

10、授業観察の視点 これでは少ない。授業力向上の6つの要素に照らしてもっと具体的に書くこと

目標

- ・目標を達成するための教材選びは適当か。

展開

- ・生徒は用具を意図的に扱おうとしているか。

※ 以下、第2案には板書計画、ワークシート、授業アンケートを載せる。

授業アンケートの項目は貴校の状況に合わせて設定して下さい。4択にすること、記名にする。生徒がコメントを書く欄を設定すること